

5-3	コロナ禍で、鉄道会社は収益をどう上げる？	所属 中央大学附属横浜中・高 氏名 中原啓太郎
資料名	日本経済新聞（2021年8月12日）投資情報面 鉄道大手16社、回復に差	
資料内容	○ 2021年4～6月期の連結決算で東急電鉄など9社は最終損益黒字 ○ 不動産事業などが回復に貢献 ○ 鉄業事業比率が大きいJR西日本とJR東海は22年3月期通期の業績予想を下方修正。 ○ 鉄道大手は、鉄道のほか、ホテルやレジャー、流通、不動産といった事業を幅広く展開している。 ○ コロナ禍でも不動産事業は「安定的収益」。住宅の販売や賃貸を手掛け、鉄道やレジャーに比べると人流の影響を受けにくい。（東急、京阪、阪急阪神など） ○ 不動産事業でもオフィスビルの空室率が上昇するなど、先行きは不透明。 ○ 各社は収益面の多角化に向け、テレワーク向けブースやシェアオフィスといった事業の拡大を急いでいる	
教科書等との関連	中学校公民的分野 企業の経済活動 高等学校公民科 企業経営（株式会社）	
キーワード	コロナ 企業 株式会社 景気変動	
ねらい	◆利益の上げ方、変化に対応する手段・方法を考える	
活用場面 あるいは 授業プラン の概略	発問 「コロナ禍で鉄道利用者が減少しました。鉄道会社は今後どのような方法を使って利益を上げれば良いのでしょうか。社員になったつもりで考えてください」 「鉄道会社16社中9社が黒字とあります。どのように利益を上げたのでしょうか」 解説 （1）株式会社の授業で活用 ・ 鉄道会社の利益の上げ方 ・ 阪急（小林一三）、東急（五島昇）等の成長の話 （鉄道→住宅・動物園・温泉・歌劇団・百貨店・スーパー・遊園地・劇場・球団） （2）持株会社の仕組みの授業で活用 ・ 組み合わせで儲ける、付随的な分野で儲ける （3）ワーケーション：（コロナ禍での働き方提案） ・ 高尾山口駅でのリモートワーク施設（京王・タカオネ） ・ 箱根での温泉テレワーク（小田急） →都心のオフィスビル・百貨店から、郊外の施設へシフト？	
備考	TBS『がっちりマンデー』（日曜朝7:30）は、コロナ禍でもがっちり（＝儲かっている）な企業をたびたび特集している。	